

「デジタルジャパン」の原案等の策定に関する意見

1. 個人 / 団体の別: 個人
2. 氏名 / 団体名: 非公開
3. 連絡先: 非公開
4. ご意見:

「世界を先導するデジタル情報活用国家」になるために、とても重要で難しいことが、IT格差をいかに低減するか、ということと考えます。

そして、そのためには、IT弱者を以下のように分類し、それぞれに対して効果的な対応を行うことが重要と考えます。

- IT弱者の分類 -

- (a1) ITに興味がない人
- (a2) ITに興味はあるが、どうすればいいかわからない人
- (a3) どうすればいいかわかっているが、お金の余裕がない人

そして、これらの人が、ITに触れることができるようになれば、色々なサービスの恩恵を受けることができるようになり、サービスする側も、デジタル化に集中することができるようになるので、サービスの質や効率を上げつことができ、俗に言うWin - Winの関係で社会が良くなっていくものと信じています。

ここで、それぞれについて、どのような施策が効果的かと考えてみる前に、それらがどのような人か考えてみる必要があると思います。そして、以下のような環境が、1つ以上あると、上記のIT弱者になるのではないかと考えます。

- IT弱者の環境 -

- (b1) 本人が、一般的に機械音痴と呼ばれる人
- (b2) 周りに、パソコンなどを使っている人がいない人
- (b3) 周りに、パソコンなどの世話をしてくれる人がいない人
- (b4) 周りに、パソコンなどを安く使える環境がない
- (b5) 安くて簡単にデジタル情報へアクセスできる機器や環境がない

例えば、上記(a1) は、(b1) と (b2) の両方がそろった人と考えますし、どちらかだけであれば、(a1) から脱却できるとも考えます。そして、(a2) は、(b1)と (b3) の両方がそろった人であり、(a3) は、(b4) や (b5) の状況がそうしていると考えます。

そこで、まず、(a3) の「どうすればいいかわかっているが、お金の余裕がない人」に対する解決には、公共の図書館のような運用で、デジタル情報閲覧施設を作ることが有効と考えます。そして、そこでは有害でないサイトのインターネット閲覧に限定して

もいいと考える。それでも、グーグルに代表されるような、メールなどの多くのサービスを使うことができるので、十分にデジタル情報を活用してもらえると考える。

次に、(a2) の「ITに興味はあるが、どうすればいいかわからない人」については、国民一人一人に、IDとメール アドレスを付与して、ICカードを配布することが効果的ではないかと考える。そして、電子機器メーカーとインターネットプロバイダーが、そのカードをかざすだけで、ログインからメールの設定まで、自動でやってくれる機器を製造販売してくれれば、いいと考える。また、インターネットやメールの操作も簡単に直感的にできる機器もほしいと考える。

最後に、(a1) の「ITに興味がない人」については、上記の図書館のようなデジタル情報閲覧施設及び、国民一人一人のIDカードと簡単に操作ができる装置のあわせ技が効果的と考える。

しかし、それだけでは、足りないので、その施設で、インターネット教室や、メール教室のようなものを定期的開催したり、いつも係りの人に操作を聞くことができるような環境が必要と考える。ただし、教室といっても、マウスやキーボードやクリックなどの難しい言葉を勉強してもらうものではなく、そのような言葉を知らなくても使える装置を使って、いきなり遠く離れた子供や孫とのメールの交換を楽しめるような教室が必要と考える。

このような施策を行うことで、興味なかった人が興味を持ち、使えなかった人が使えるようになれば、公共サービスへのアクセスも増えて行き、デジタル情報が、テレビや新聞のように誰でも身近に使えるものになると考える。

以上